

科 目 名	解剖生理学実習					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	能 見 光 雄						
開 講 年 次	2	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	正常な骨格標本、内臓標本などによる実際の器官等の観察やスケッチで、解剖生理学で学んだ形態と生理現象のつながりを実感し、実習内の生理現象応答でなぜこの反応が生じるかを考えることで、座学による解剖生理学の知識を体に身につけた知識に変える。						
授 業 の 到達目標	①知識・理解 1) 今まで学んできた紙の上の解剖の知識を実際に標本で確認する。 2) 人体の各臓器が体のどこにあるか説明できる。 3) 人体の各臓器がどんな形や大きさをしているか述べる事が出来る。 ②思考・判断 1) 実習で行う生理現象が体の中のどこで起こっているか説明できる。 ③感心・意欲 1) 実習で行う生理現象を自分なりに説明しようとする意思を持つ。 ④態度 1) 実習で行う生理現象に対して、主体的に考える。 ⑤技能・体験 1) 実習内容をレポートにまとめる。						
学習方法	実習を行う。自分の持っている知識と図書館等で獲得できる知識でもって、レポートの作成を行うが、考察に対しては自分なりの、人まねでない考えの提出が期待される。						
テキスト及び参考書等	実習時にプリントを提供する						
評価基準・方法	到達目標					評価割合	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合		
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート	◎	◎	◎	◎		65	
授業態度		○	◎			15	
受講者の発表							
授業への参加度		○	◎			20	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	温熱性発汗 1						
第 2 週	温熱性発汗 2						
第 3 週	体温測定 1						
第 4 週	体温測定 2						
第 5 週	内臓標本スケッチ A 1						
第 6 週	内臓標本スケッチ A 2						
第 7 週	内臓標本スケッチ B 1						
第 8 週	内臓標本スケッチ B 2						
第 9 週	組織細胞観察 1						
第 10 週	組織細胞観察 2						
第 11 週	細胞膜を介した物質の輸送 1						
第 12 週	細胞膜を介した物質の輸送 2						
第 13 週	基本味に対する味覚閾値の差違 1						
第 14 週	基本味に対する味覚閾値の差違 2						
第 15 週	痛覚、聴覚、空間閾値の観察						
第 16 週							
備 考	授業外学習（事前学習・事後学習）の指示 日程は前もって掲示されているので、実習に際しての最低限の知識を思い出しておくこと。又、終了後は確実な知識にすること。						